

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600068		
法人名	株式会社 さくらケアサービス		
事業所名	グループホーム「あいりレー池田」(さくら棟)		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町藤代698-1		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigekensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&ijvsvosvCd=2192600068-006ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和7年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、緑ある自然豊かな中でゆったりと安心して生活できるように支援しています。コロナ禍以降、いろいろな制限はありましたが、広々とした中庭や施設周辺の散歩にて四季を感じながら過ごしていただいています。これからも楽しみを持ちながら日々を穏やかに過ごしていただけるよう、職員とご本人様が共に考え、実行していく。そんな生活をしていく場が「あいりレー」でありたいと思っています。生涯において一番大切な時間を共に過ごせる事に喜びを感じながら職員一同温かい気持ちで日々の生活のお手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

池田山の麓に位置しており、春には桜、夏には茶畑、秋には紅葉、冬には雪景色と四季の移ろいを肌で感じられる環境である。平屋建ての建物は天井が高く、明るい木調の落ち着いた設えであり、リビングの大きな窓や中庭からは町の眺望を一望できる。中庭は利用者の外気浴や野菜づくり、洗濯物干し等多目的に活用され、暮らしに彩りを添えている。ホームでは「自分の家族ならこうしたい」という理念を掲げ、家族的な雰囲気の中で利用者一人ひとりが読書、パソコン、塗り絵等、思い思いの活動を安心して楽しめるよう支援に努めている。職員は利用者の意向を尊重し、できることを見出して提案するとともに、自己決定を支えることで主体的な生活を後押ししている。誕生日にはリクエストメニューや手作りケーキで心を込めてお祝いをし、季節ごとのレクリエーションも活発に実施し、その様子を便りにまとめ、家族へわかりやすく伝えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、利用者の家族とおなじような介護を提供できるよう意識しながら取り組んでいる。	理念は玄関に掲示し、掲示物近くで朝礼を行い、「自分の家族ならこうしたい」を合言葉に職員各自が意識して、日々の支援を行っている。朝礼では「職場の教養」という冊子から、職員が交代で言葉を選び、声に出して読み上げることでチームの実践力を高めている。	ホームが重視するサービスにおいて、理念に基づく具体的な行動を検討し、職員間で話し合っ明文化する等、チームとしての方向性の明確化に向けた取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々に毎月の行事として参加して頂き、地元の方との交流を図っていたが、コロナウイルス感染流行以後、中止している。	ホームの敷地外に出る機会は限られているが、近隣に地元で有名な桜の名所があるため、利用者は散歩を楽しみ、職員も地域の方と挨拶を交わしたりしている。系列事業所では地域の学生との交流を再開し、今後は喫茶店や買い物等への外出を通じて、地域とのさらなる交流を図ることを検討している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいりレーだよりで毎月の行事予定を報告。サービス内容については、意見をいただき話し合いを通じて反映できるよう取り組んでいます。コロナウイルス流行以後、郵送にて報告している。	ホーム内での感染拡大リスクを考慮し、運営推進会議において、書面による開催を実施し、運営状況を文章のみならず写真等を交えて伝えている。また、書面配布時には各委員の感想を聴取している。	ホームでは対面開催に適したタイミングを見極めている状況である。今後は、地域の会場を活用する等工夫して、運営推進会議を対面で開催できるよう取り組まれない。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば、必要に応じて、町や県、広域連合に相談し情報交換をしている。協力もして頂いている。	代表者は主に町担当者と連絡を取り合い、制度や運営上の疑問や相談ごとを問い合わせたり、情報交換する等して、良好な関係性を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの作成や権利擁護推進委員の研修を受講をしたりしてカンファレンスなどで職員への研修も行っている。毎月の定例会議でも取り上げて話し合っている。	毎月、代表者と系列事業所の管理者等が合同で定例会を開催し、その会議の中で身体拘束廃止(適正化)委員会を設置し、センサー機器の運用状況やケアサービスの状況について検討している。また、カンファレンスにおいて研修を実施し、身体拘束をしないケアの理解を深めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しカンファレンスなどで職員への研修を行っている。	日々の業務の中で、管理者は職員による利用者への言動を確認し、虐待につながるグレーゾーンのケアや不適切ケアが発生していないか点検している。問題や懸念があれば申し送りや職員会議で共有する等して、虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して内容は把握している。入居者の方が必要な方には活用してもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご家族やご本人様とサービス内容や料金、解約方法等の十分な説明を行い、理解納得の上、署名捺印を頂いている。解約時には必要に応じて面談を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設け、意見を頂き反映できるように配慮している。運営推進委員会で地域やご家族様の意見を出して頂き運営に反映させていたが、現在はコロナ禍で来訪者を中止している。又、家族の面会時には、現状や今後について何か意見などがなければ話をしている。	面会時や電話等を通じて利用者の家族から様々な意見を聴取している。例えば、居室での面会や外出の希望等の意見を受けて、制限緩和の時期を検討する等、運営に反映させている。また、個別のケア内容の要望についても職員間で申し送りをし、情報を共有し、会議で協議している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々に面談やカンファレンス、職員会議を行い、勤務状況・意見・改善点等を聞く機会を設けている。その上で役職者で話し合い意見をまとめ実行している。	毎日、朝礼や申し送り、夜勤者ノートを活用して勤務の引き継ぎを行う際に、職員の意見を聞き取っている。また、各種会議でも職員の意見をまとめて検討事項とし、運営に反映させている。例えば、各職員が十分に休憩を取れるよう、業務シフトや業務フローを見直す等して、改善している。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	実績や勤務状況により給料水準も再検討し、各自の得意な部分を活かし、意欲的に働けるように努めている。資格取得にも勤務内で行えるように協力している。	働きながら介護福祉士資格の取得を支援したり、専門研修を実施する等して、キャリアアップを図れる職場となっている。また、個別面談等を通じて職員個々の家庭状況を聞き取り、希望休を踏まえた勤務表を作成することで、無理なく勤務できる体制を整えている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加(リモート含む)し、研修内容等で必要な事は発表を行い、介護の現場に反映させている。他の法人の施設研修も取り入れている。。	外部研修受講後は、カンファレンスで学びについての気づきや今後の業務への活用方法等を相互に発表し、ケア実践につなげている。また、認知症ケア専門士研修へも多く参加し、仕事への意識を高めている。さらに、外国人人材の受け入れについても取り組みを進めているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の施設を訪問する機会を設けたり、施設内での工夫を話し合う場を設けている。各研修への参加、地域ケア会議の出席により、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本姿勢として接しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の状態を把握し、状況に応じて対応を検討している。朝礼、申し送り、引継ぎ等で話し合い、素早く対応できるように心掛けている。	入居前には本人及び家族への聞き取りにより意向を確認している。入居後には本人の立場に立つてケアや行事を実施し、その反応や様子を観察の上、興味・関心の有無やケア方法の適切性を検証しながら、意向や希望に沿った最適なケアであるかを確認している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時、職員、ご家族様、本人様から意見を聞き、「今、出来る事は何か」を考え、安心して生活して頂けるような介護計画を作成している。	面会時や電話を通じて現状を報告し、家族の意向を確認している。また、日常生活の場面における本人の表情やしぐさ、言動、及び主治医から得た健康状態を踏まえ、カンファレンスにおいて職員間で話し合い、介護計画を作成し、見直しもしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の記入及びタブレットに入力し、皆で共有している。日常生活の中で介護計画に反映していける部分は見直しを行っている。	日誌や夜勤ノート、申し送りノートといった紙媒体の記録を活用し、職員が記録を一覧性を高めて共有できるようにするとともに、タブレット活用による介護記録の導入で業務の効率化を図り、介護記録の見直しが容易に行えるよう検討している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍、外出を中止している。外出の代替として、利用者様の要望を取り入れながら、中庭の散歩や園芸などで外に出る機会を多くし、個々の楽しみを見出している。寒さで初詣に行けなかったが、施設内で宮司による厄除け祈禱をしてもらい皆さん喜んでいた。	家族の状況に応じて柔軟な支援を行っている。例えば、利用者の希望品や必需品について家族による持参が困難な場合には、了承を得た上で代わりに買い物に行く等、一人ひとりの入居者や家族のニーズに合わせて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力による行事を企画、手芸・華道・書道クラブ等も計画し、日常生活に楽しみを持てるよう支援している。が、コロナ禍以降ボラの来訪は中止しスタッフが中心となり行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、主治医は限定しておらず、各自のかかりつけ医、ご家族様、事務所との連携を持ちながら支援している。その中で必要に応じて皮膚科・耳鼻科・整形などの専門医の診療が必要であれば家族又はスタッフで受診の対応をしている。	かかりつけ医は自由に選択でき、定期的に訪問診療を受けている。状態変化時には状態を伝え、指示を仰いで対応をしている。総合病院や専門医の受診を希望する場合は、家族付き添いで受診しているが、難しい場合は施設送迎で行く場合もある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院側に施設での健康状態等の情報提供をスムーズに行う。また、入院後は状態把握のために定期的に面会に伺い退院までの状態を把握しておく。退院時には病院側とカンファレンスを行い状況を把握する。	入院時には、入居時に把握したADLやケア方法等の情報を医療機関へ提供している。入院期間中は、家族や病院関係者と細かに連絡を取り、面会を行って治療経過や退院の見通しを把握し、円滑な退院調整及び受け入れの環境の整備に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアのマニュアルは作成しているが、現在看取りケアはしていない。	契約時に重度化した場合の対応について説明を行っている。また、身体状態が悪化した際には家族へ連絡し、主治医から直接説明をしている。経管栄養や吸引等、当事業所で対応困難な医療行為が必要となった場合は、利用者・家族の意向に応じて、特別養護老人ホームや医療機関等、利用者に最適な施設を紹介している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成。救急救命の講座も各職員が受講している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて避難経路、避難場所の確認。また、地元の消防署に対し当施設の把握の呼びかけ。運営推進会議で消防署の方を招いて講義をして頂いたこともある。土砂災害を想定して利用者様を車で別の施設への避難訓練も実施している。	食料・飲料水・おむつ等の日用品を備蓄している。また、非常用発電機や除雪機等も整備してある。今年度の訓練では土砂災害を想定し、入居者を車に乗せて避難所へ移動することで、災害時に通行不能となる道路があるという現実の課題が判明し、避難計画の見直しを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成。言葉かけ等会議で再確認を行っている。	カンファレンスの中で研修を行い、チーム全体で利用者尊重の姿勢や不適切な言葉遣いをしないよう意識を共有している。生活上の対応の一例として、例えば、入浴時に同性介助を希望する入居者には、可能な限り対応するよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の能力に合わせ、いくつかの選択支を設け自己決定が行えるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活パターンは決まっているが、一人ひとりが自由に生活できるように柔軟に対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意片付けは利用者様と共に行っている。出前等を設け味覚・視覚・聴覚と雰囲気を楽しめる食事提供に努めている。15時のおやつは毎回手作りで提供するよう努めている。月1回のパンバイキング、BDメニューも計画し喜んで食べて頂ける様企画している。	食事は職員が調理を行っている。毎月、誕生日メニューや手作りケーキ、パンバイキング、行事食、テイクアウト等を工夫して実施し、食べる楽しさを提供している。日々のおやつもすべて手作りで提供しており、利用者から好評を博しているとのことである。また、茶碗拭き等の家事的役割を利用者に担っていただき、自己効用感や達成感につなげている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一日のカロリー計算がされており、毎回食事、水分共に摂取量を記録し変化に気をつけ対応している。又、嚥下困難な方には補食としてプリンやヨーグルトの摂取を促している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、毎日義歯洗浄を行い、歯ブラシを利用できない方には口腔スポンジを使用しその方の状態に合わせて対応している。	毎食後、入居者に歯磨きの声かけを行い、可能な限り自力で実施してもらうよう促している。自力での歯磨きが困難な場合は口腔ケアの支援をしている。ケアを拒否される入居者には無理強いせず、時間をずらして適切なタイミングを見計らいながら、行っている。また、口腔内に異常が疑われる際は、家族と相談の上、歯科受診につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	タブレットに排泄時間帯を記録し、個々の状態に合わせ声かけをしている。また、リハビリパンツを使用している方に対しても排泄の声掛けし自立支援に努めている。その中で、その方の尿量に合わせたパットの使用を調整している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時声掛けをして午前・午後の入浴の希望があれば、その都度対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の主な日課は決まっているが、その日の体調に合わせて声掛けを行っている。夜間帯も定期的に巡回して安心して休んでいただけるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬中の処方箋をファイルし、必要な時に職員が閲覧できる。また、各キッチンには内服薬の詳細(錠数等)がわかるように貼ってある。往診時は往診記録を記入し診察の内容や内服の変更などを記録しスタッフ皆で共有できるよう工夫している。必要に応じ薬剤師にも相談をしている。	誤飲防止のため、薬を飲み込むまで職員が確認を行っている。錠剤の服用が困難な場合は、散薬への変更やゼリー剤併用等、一人ひとりに合わせた方法で提供している。困った時にはホーム内の看護職員や薬剤師に、迅速に相談できる体制を整えている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々なレクを取り入れて各自の得意な分野を探りながら支援を行い、本人様の希望に応えられるよう考慮している。日中の役割を各自可能な限り持って生活している。	行事やレクリエーション、日々の様子は申し送りノート等に記録し、毎月のカンファレンスで利用者の得意なことや好みについて職員間で共有している。洗濯たたみや行事準備、おやつ作り、塗り絵等は、一人ひとりのペースや興味に合わせて職員と一緒にやっている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地元の方の協力により、区の運動会や町内の福祉フェア、歌謡ショーにも参加させて頂いている。また、外食や出前を定期的に設けランチやモーニング、アフタヌーンティに出かけている。その際には、個々に粥・キザミ食を用意してもらい、席もトイレや入口に近い場所等の配慮をして頂いているが、現在は、外出自粛中。	現在、感染予防のため外出は自粛しているが、今後の再開に向けて検討を進めている。中庭で外気浴を楽しんだり、季節の花や野菜を育てたりして、四季の移ろいを感じてもらっている。また、初詣の代替として、施設内に宮司を招き、厄除け祈願等の行事を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には各自でお金は所持していない。現在、外出自粛中。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて対応している。暑中見舞い・年賀状は毎回手作りで絵はがき風にして郵送している。定期的に家族から手紙やはがき、誕生日のプレゼントなどが送られてきており、プレゼントと共に写真を撮り家族に送ったりしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居室や共用部分の清掃と消毒をし、清潔を保っている。食堂やホールには季節の花を取り入れたり、施設周りには花壇や菜園を設け季節を感じられるように工夫をしている。中庭の皆が見える場所でジャガイモやイチゴ、トマトなどを栽培し収穫して楽しみ、おやつとして食べている。	ホーム内は清掃が行き届いており清潔感が感じられる。入り口には洗面所があり、手洗いやうがいができる環境である。また、職員と入居者の作品が飾られており、家庭的な雰囲気も感じられる。居室の表札は、利用者の名前と写真がある等、わかりやすい工夫がなされている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを設けゆったりと過ごせるようにしている。庭にはベンチを置き、景色を眺めながら独りの時間も過ごせるように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂けるよう入所時にご家族様に声をかけている。配置については、ご家族様と利用者様と相談して決定している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はすべてバリアフリーに設計。平屋建ての為、各職員も各棟の利用者様の状態を毎日把握できる。廊下・トイレに手すりを設け、安全に移動でき施設内での散歩など安全に行えるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600068		
法人名	株式会社 さくらケアサービス		
事業所名	グループホーム「あいりレー池田」(すずらん棟)		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町藤代698-1		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=2192600068-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和7年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、緑ある自然豊かな中でゆったりと安心して生活できるように支援しています。コロナ禍以降、いろいろな制限はありましたが、広々とした中庭や施設周辺の散策にて四季を感じながら過ごしていただいています。これからも楽しみを持ちながら日々を穏やかに過ごしていただけるよう、職員とご本人様が共に考え、実行していく。そんな生活をしていく場が「あいりレー」でありたいと思っています。生涯において一番大切な時間を共に過ごせる事に喜びを感じながら職員一同温かい気持ちで日々の生活のお手伝いをさせて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人ひとりを「自分の家族であればこうしたい」を大切に、利用者の家族とおなじような介護を提供できるよう意識しながら取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々に毎月の行事として参加して頂き、地元の方との交流を図っていたが、コロナウイルス感染流行以後、中止している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あいりレーだよりで毎月の行事予定を報告。サービス内容については、意見をいただき話し合いを通じて反映できるよう取り組んでいます。コロナウイルス流行以後、郵送にて報告している。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点があれば、必要に応じて、町や県、広域連合に相談し情報交換をしている。協力もして頂いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの作成や権利擁護推進委員の研修を受講をしたりしてカンファレンスなどで職員への研修も行っている。毎月の定例会議でも取り上げて話し合っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成しカンファレンスなどで職員への研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加して内容は把握している。入居者の方が必要な方には活用してもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご家族やご本人様とサービス内容や料金、解約方法等の十分な説明を行い、理解納得の上、署名捺印を頂いている。解約時には必要に応じて面談を行う。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内にご意見箱を設け、意見を頂き反映できるように配慮している。運営推進委員会で地域やご家族様の意見を出して頂き運営に反映させていたが、現在はコロナ禍で来訪者を中止している。又、家族の面会時には、現状や今後について何か意見などがないか話をしている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個々に面談やカンファレンス、職員会議を行い、勤務状況・意見・改善点等を聞く機会を設けている。その上で役職者で話し合い意見をまとめ実行している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	実績や勤務状況により給料水準も再検討し、各自の得意な部分を活かし、意欲的に働けるように努めている。資格取得にも勤務内で行えるように協力している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加(リモート含む)し、研修内容等で必要な事は発表を行い、介護の現場に反映させている。他の法人の施設研修も取り入れている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の法人の施設を訪問する機会を設けたり、施設内での工夫を話し合う場を設けている。各研修への参加、地域ケア会議の出席により、情報交換をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本姿勢として接しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の状態を把握し、状況に応じて対応を検討している。朝礼、申し送り、引継ぎ等で話し合い、素早く対応できるように心掛けている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成時、職員、ご家族様、本人様から意見を聞き、「今、出来る事は何か」を考え、安心して生活して頂けるような介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の記入及びタブレットに入力し、皆で共有している。日常生活の中で介護計画に反映していける部分は見直しを行っている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍、外出を中止している。外出の代替として、利用者様の要望を取り入れながら、中庭の散歩や園芸などで外に出る機会を多くし、個々の楽しみを見出している。寒さで初詣に行けなかったが、施設内で宮司による厄除け祈禱をしてもらい皆さん喜んでいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力による行事を企画、手芸・華道・書道クラブ等も計画し、日常生活に楽しみを持てるよう支援している。が、コロナ禍以降ボラの来訪は中止しスタッフが中心となり行っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご本人様の意見を尊重し、主治医は限定しておらず、各自のかかりつけ医、ご家族様、事務所との連携を持ちながら支援している。その中で必要に応じて皮膚科・耳鼻科・整形などの専門医の診療が必要であれば家族又はスタッフで受診の対応をしている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院側に施設での健康状態等の情報提供をスムーズに行う。また、入院後は状態把握のために定期的に面会に伺い退院までの状態を把握しておく。退院時には病院側とカンファレンスを行い状況を把握する。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアのマニュアルは作成しているが、現在看取りケアはしていない。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成。救急救命の講座も各職員が受講している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練にて避難経路、避難場所の確認。また、地元の消防署に対し当施設の把握の呼びかけ。運営推進会議で消防署の方を招いて講義をして頂いたこともある。土砂災害を想定して利用者様を車で別の施設への避難訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成。言葉かけ等会議で再確認を行っている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の能力に合わせ、いくつかの選択支を設け自己決定が行えるよう支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の生活パターンは決まっているが、一人ひとりが自由に生活できるように柔軟に対応している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の用意片付けは利用者様と共に行っている。出前等を設け味覚・視覚・聴覚と雰囲気を楽しめる食事提供に努めている。15時のおやつは毎回手作り提供するよう努めている。月1回のパンバイキング、BDメニューも計画し喜んで食べて頂ける様企画している。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一日のカロリー計算がされており、毎回食事、水分共に摂取量を記録し変化に気をつけ対応している。又、嚥下困難な方には補食としてプリンやヨーグルトの摂取を促している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、毎日義歯洗浄を行い、歯ブラシを利用できない方には口腔スポンジを使用しその方の状態に合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	タブレットに排泄時間帯を記録し、個々の状態に合わせ声かけをしている。また、リハビリパンツを使用している方に対しても排泄の声掛けをし自立支援に努めている。その中で、その方の尿量に合わせたパットの使用を調整している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時声掛けをして午前・午後の入浴の希望があれば、その都度対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の主な日課は決まっているが、その日の体調に合わせて声掛けを行っている。夜間帯も定期的に巡回して安心して休んでいただけるよう支援している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに服薬中の処方箋をファイルし、必要な時に職員が閲覧できる。また、各キッチンには内服薬の詳細(錠数等)がわかるように貼ってある。往診時は往診記録を記入し診察の内容や内服の変更などを記録しスタッフ皆で共有できるよう工夫している。必要に応じ薬剤師にも相談をしている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	様々なレクを取り入れて各自の得意な分野を探りながら支援を行い、本人様の希望に応えられるよう考慮している。日中の役割を各自可能な限り持って生活している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	地元の方の協力により、区の運動会や町内の福祉フェア、歌謡ショーにも参加させて頂いている。また、外食や出前を定期的に設けランチやモーニング、アフタヌーンティに出かけている。その際には、個々に粥・キザミ食を用意してもらい、席もトイレや入口に近い場所等の配慮をさせて頂いているが、現在は、外出自粛中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には各自でお金は所持していない。現在、外出自粛中。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に応じて対応している。暑中見舞い・年賀状は毎回手作りで絵はがき風にして郵送している。定期的に家族から手紙やはがき、誕生日のプレゼントなどが送られてきており、プレゼントと共に写真を撮り家族に送ったりしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居室や共用部分の清掃と消毒をし、清潔を保っている。食堂やホールには季節の花を取り入れたり、施設周りには花壇や菜園を設け季節を感じられるように工夫をしている。中庭の皆が見える場所でジャガイモやイチゴ、トマトなどを栽培し収穫して楽しみ、おやつとして食べている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを設けゆったりと過ごせるようにしている。庭にはベンチを置き、景色を眺めながら独りの時間も過ごせるように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものを持ち込んで頂けるよう入所時にご家族様に声をかけている。配置については、ご家族様と利用者様と相談して決定している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はすべてバリアフリーに設計。平屋建ての為、各職員も各棟の利用者様の状態を毎日把握できる。廊下・トイレに手すりを設け、安全に移動でき施設内での散歩など安全に行えるよう工夫している。		